

世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2019. 7. 5 No.354



横田にも沖縄にも特殊作戦部隊はいらない!

2018年6月29日から2019年6月27日までの1年間で、CVオスプレイが銃口を住宅地に向けて飛行訓練していたのが29日、延べ32機だったことが明らかになりました。

2018年6月29日

7月5日
7月11日
7月12日
7月19日
7月30日

8月14日
8月24日
8月28日

11月1日
11月7日
11月15日
11月19日
11月27日

2機

2019年1月4日
1月9日
1月10日
1月29日

3月11日
3月13日
3月16日

5月3日
5月7日

6月5日
6月6日
6月11日
6月20日
6月27日

2機

2機

29日、延べ32機



2019. 6. 27

第21特殊作戦中隊司令官に就いたジェイソン・ホック中佐(左)と、第753特殊作戦航空機整備中隊司令官のラリー・セバシ少佐(右)＝米軍横田基地で



オスプレイ運用部隊発足

横田基地「訓練は承認区域のみ」

米軍横田基地(福生市など)に昨年十月に正式配備された米空軍の垂直離着陸輸送機CV22オスプレイを運用する第二特殊作戦中隊と、機体を整備する第七五三特殊作戦航空機整備中隊が一日、正式に発足した。

横田基地内で行われた設立式典で、特殊作戦中隊司令官にジェイソン・ホック中佐、特殊作戦航空機整備中隊司令官にラリー・セバシ少佐がそれぞれ就任した。

米軍は昨年十月、横田基地に五機のオスプレイを配備。同時に、沖縄の米軍嘉手納基地に司令部がある第三五三特殊作戦群の第一分遣隊が横田基地に派遣された。徐々に人員を増やし、今回、同隊が運用部隊と整備部隊の二つに分かれて、正式に横田基地に配備されたことになる。

第三五三特殊作戦群の指揮下にあることは変わらないという。発足時の人数

などは明らかにしていない。式典後、ホック中佐は両中隊の任務について「これまでと変更はない。安全に航空機を運用し、インド・太平洋地域の人道支援、レスキュー支援をしていく」と述べた。

市街地上空を飛ぶことについては「安全を最優先にしている。できるだけ人口の多い地域を避け、訓練は承認された区域のみで行う」と強調した。

米軍は二〇二四年ごろまでに計十機のオスプレイと、約四百五十人の人員を横田基地へ配備する方針を示している。

多摩新聞(萩原誠)

横田燃料等流出134件 市民に知らせず!

米軍横田基地で、2010~2017年に航空機のジェット燃料が流出するなどした事故が少なくとも134件起きていたことが毎日新聞が入手した米軍の内部資料から判明しました。このうち外務省に通報があったのは3件だけでした。

新たに確認できた事故131件中2件、その他・2012年2月、タンクからディーゼル燃料734ガロン(約2770リットル=1ガロンを米国基準の約3.78リットルで換算)

・2016年9月、飛行中のC-130輸送機からジェット燃料20キロポンド(約9000キログラム)

・10ガロン以上が流出した事故は42件に上り、排水溝に流れ込んだり、土壌に染み込んだりした可能性を示す記載もあったといえます。

外務省が通報を受けた流出事故3件

・2010年7月、KC-10空中給油機への給油中にホースから約10ガロンのジェット燃料。

・2017年3月、C-130輸送機から燃料約100ガロン。

・2017年7月、C-5大型輸送機からブレーキ液約50ガロン。

米軍は日本政府に通報せず、日本政府は国民に知らせない、これは大問題です。環境問題は命の問題でもあります。今、沖縄では嘉手納基地が原因と思われる井戸水や水道水が問題となっています。横田基地も例外ではありません。

2012~17年に米軍横田基地で起きた漏出事故

液体の種類	件数	漏出量(ガ)
航空燃料	64	3445
ディーゼル燃料	8	3040
油	8	250
油圧作動油	17	530
その他(ガソリン、不凍液、泡消火剤など)	21	3324
合計	118	10588

※漏出量は四捨五入しているため合計が合いません

横田基地



燃料など流出事故134件

日本へ通報3件

在日米軍司令部がある横田基地(東京都福生市)で、2010~17年に航空機のジェット燃料が流出するなどした事故が、少なくとも134件起きていたことが分かった。けさ(28日)の日新聞が報じた。同紙が米国の情報公開制度を使い、同基地に関する情報を入手して判明した。資料には、12年2月にタンクからディーゼル燃料734ガロン(約2770リットル)が流出した事故が、16年9月には飛行中のC-130輸送機からジェット燃料約9000キログラム(約20キロポンド)が流出した事故が、東京都周辺の6市町が流出事故が起きた際の通報を求めた。

沖縄タイムス紙
2018年12月10日付

米国における米陸軍との実動訓練の実施状況(陸上自衛隊)

陸上自衛隊は、6月3日以降、アメリカ合衆国アラスカ州エレメンダルフ・リチャードソン統合基地等において実施していた米陸軍との実動訓練(アークティック・オーロラ)を終了しました。

本訓練では、陸上自衛隊第1空挺団の約110名と在アラスカ米陸軍第4-25歩兵旅団戦闘団(空挺)の約140名が、2週間強にわたり、落下傘降下訓練、射撃訓練等を共同により実施し、日米間の相互連携要領を訓練して、その能力を維持・向上させるとともに、日米空挺部隊間の信頼関係を強化しました。



降下面前の機内(米軍機内)の状況



降下する隊員



小銃小隊戦闘射撃(陣地への突入)